

news.



速報!

世界最大のネットワーク・イベント NETWORLD+INTEROP 95

7月19日から21日の3日間、NETWORLD + INTEROP'95が幕張メッセで開催された。世界最大のコンピュータネットワークといわれるこのイベントは、世界5都市（ラスベガス・フランクフルト・パリ・アトランタ・東京）で開かれ、東京での開催は今年で2回目になる。出展社は去年の1.6倍もの約250社におよび、会場内の各ブースはネットワークケーブルで結ばれた。

ATMや超高速LANなどの最新技術はイベントの目玉であるが、今回は、全体的に技術的な目新しさはあまりなかった。100MbpsのイーサネットカードやATMスイッチなど、昨年のN+I TOKYOで注目さ

れた技術が今年は形となって各ブースで展示されていたぐらいである。それよりも、インターネットブームといわれる最中において、ネットワークのパーソナル利用に向かうベクトルが確かに感じられた。

SSDのインターネットの テーマはパーソナル

複数のベンダーが相互に接続し、あるテーマのもとにデモを行うソリューション・ショーケース・デモンストレーションのコーナー(SSD)では、ATM&Frame Relay、Fast Ethernet、Internetの3つのテーマで展示された。特にInternetコーナーでは、「パーソナルからビジネスまですぐ使えるインターネット」がテーマに設けられた。ここではISDNによるダイヤルアップ接続の実演やインターネットマガジン編集部によるN+I Real Timesの編集実演が行われた。こうしたインターネットの体験コーナーは会場のいたるところに見られ、来場者の目をひいていた。

N+Iでは、各ブースを結ぶネットワーク「InteropNet」が構築された。使用された



NETWORLD + INTEROP 95会場風景

光ケーブルは全長約40km、またUTPケーブルは約100kmにもおよんだ。

プロバイダーは 12社が出展

IJや東京インターネット、富士通、PSIのほか、最近始まったNTTデータ通信のインターピア、丸紅ハイテックのファミール、ソニーシステムデザインの新フォニーなど、プロバイダーの出展は全部で12社あり、接続サービス業者の急増を改めて感じさせる。

目玉はやはり、ISDNを利用した同期通信のダイヤルアップサービスである。

異色なのはベッコアメインターネット。B-Cityという仮想都市サービスやオンラインゲーム、新しいIGUI-BBSなどを一斉に展示。プロバイダーサービスの新たな付加価値を印象づけた。東京インターネットもNetCityという仮想都市インターフェイスのデモ、インターネットフォンの実演など、インターネットの新しいアプリケーションを紹介し、「未来のインターネット」をアピールしていた。

Windows用のアクセス パッケージが豊富

昨年も展示されていたインターネット接続ソフトの「カメレオン」は、今回Ver.4.5の英語版が展示されていた。日本語版はフォーバルクリエイティブからWindowsNTでも動作する「カメレオン32」が紹介されている。インターネットにアクセスするためのこのようなパッケージソフトはWindows用が豊富にあった。トランスコスモスは米コンピュサーブの「INTERNET IN A BOX」、コンテックやマクニカも低価格のTCP/IPソフトを出展。パソコン通信ソフトではおなじみのインターコムがインターネットアプリケーションをバックした新製品「まいとーくインターネット」を紹介。ジャストシステムは8月から実験サービスを始め

るジャストネットの紹介とともに、そのアクセスソフトとして一太郎Ver.6.3 for Windowsを紹介した。

このようなWindowsで使えるソフトの展示はインターネットの広がりを見せているだろう。

利用技術は まだこれから

さまざまな製品が紹介され、「インターネットソリューションサービス」と銘打った展示も多く見られる中、気になるのはネットワークをどう使うかという視点である。ハードウェアやソフトウェアに比べてコンテンツの紹介は非常に少ないが、富士通のブースでは「Media Tower」という情報サー

ビスが紹介されていた。これは映像や音声、静止画などをミックスし、必要なときに検索して取り出せるというもので、インターネットやデータベースディストリビューターと連携して提供するという。

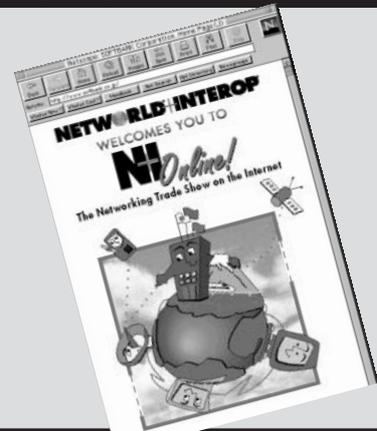
WWWの新技术であるVRMLの展示は見られたが、番組そのものの展示はまだあまりない。コンテンツサービスはこれからだろう。

*

最終日はインターネットマルチキャストサービスのカール・マラムッド氏が記者発表を行い、インターネットでの万国博覧会「インターネット1996ワールド・エキスポジション」の日本での概要が明らかになるが、この原稿の締め切り時点ではまだ発表されていない。次号で紹介したい。

WWWによるバーチャルトレードショー・N+I Online!

幕張メッセでのイベントの先がけて、インターネットでは7月3日からWWWの仮想展示場「N+I Online!」がオープンした。約250社の出展社情報、70セッションにもおよぶコンファレンスの内容を検索できるほか、SSDやInteropNetの内容も紹介され、イベントの全容がわかるようになっている。また、アップル、IJ、東芝、NTT、ノベル、古河電気工業、松下電器産業などはバーチャル出展社として参加し、N+I Online!から自社のホームページへのリンクや、来場者からの電子メールにも対応した。このサービスは8月4日まで提供中。
URL <http://www.softbank.co.jp/>



編集部が提供するニュースコーナー・N+I RealTimes

インターネットマガジン編集部では、イベントの情報を会場からリアルタイムでインターネットに発信する試み「N+I RealTimes」に挑戦した。5名の記者がデジタルカメラとミニディスクレコーダーをかかえ、各ブースを回ってそれぞれの見どころを取材した。また、来場者の生の声をレコーディングし、その音声を次々にリアルオーディオに載せて流していくインターネットのラジオ局にも挑戦。キーノートスピーチの内容も登録した。編集部としては初の試みだったが、イベントの臨場感を味わっていただけただろうか。
URL <http://realtimes.impress.co.jp/>

インターネットの商用化、国際化、多様化を反映 INET '95 ハワイで開催

去る6月27日から6月30日まで、ハワイ州オアフ島のワイキキにてインターネット学会の年次総会であるINET '95が「インターネット:GIIを目指して」をテーマに開催された。今回の会議は、インターネット学会の創立以来4回目だが、120か国から約1500名の参加者を迎え、過去最大の規模となった。

今回の会議の傾向として参加者の間から聞かれたのが、参加の間口がより広がったということである。今年も会議の直前に発展途上国からの参加者を支援するための特別ワークショップが開かれるなど、インターネット学会の国際協力に対する積極的な取り組みが示された。研究報告でも、ビジネス関連のセミナーが今回ほど多く開かれたことはなく、インターネット利用の政治的、文化的、あるいは社会学的な考察も行われた。会議の性格が、エンジニア中心のインターネット最新技術の総括の場から、インターネットに関するあらゆる議題の討議の場へとすでに大きく転換していることを再確認するものだった。(編集部)



新体制で臨む インターネットの新たな課題

INET '95のオープニングでは人事の異動の発表があり、インターネット学会の会長職がヴァント・サーフ氏から、NSFNETの前身であるCSNETの運営者の1人で日本と米国の間のインターネット接続にも尽力したラリー・ランドウィーバー氏へと引き継がれることが発表された。

続いて行われたITUのジーン・ジップグエップ氏のGIIについての基調講演では、物理的な情報通信基盤と、その上に構築



今期で会長の任期を終えるヴァント・サーフ氏(左)と新任のラリー・ランドウィーバー氏(右)

される各種の情報サービスを区別する必要がまず強調された。そして、情報サービス分野において「接続の自由、情報流通の自由、ビジネスの自由」を取り入れたことをインターネットの最大の貢献と位置づけ、GIIの発展の中でインターネットがこのような性格をどこまで保っていけるかが課題であると締めくくった。

インターネットの現状を 反映した分科会の構成

研究発表の場であるセッションは、アプリケーションテクノロジー、商業利用、教育、ネットワークとアプリケーションエンジニアリング、政策、地域、ネットワークテクノロジー、ユーザーの8つのテーマ別に分科会形式で行われた。

技術部門に限ると、提出される論文はPh.D学位の認定を受けられるほどのクオリティーが毎回求められるという。当然のことながら、セキュリティ、マルチキャスト、ATM、次世代のインターネット

プロトコルIPv6など、現在最も技術的にホットな話題が議論の中心となっていた。

しかし、今回のプログラム構成で最も注目されたのは、ビジネスと教育のテーマでこれまでになく多くのセッションが開かれたことである。インターネット技術の開発者側だけでなく、よりエンドユーザーに近い側からのさまざまな声が聞かれるようになったということだろう。

オンライン出版の商用化モデルについて講演したティム・オライリー氏はプリントメディアとWWW上の出版活動(O'Reilly's Global Network Navigator)を通しての経験から、特定の読者にアピールする



オンライン出版の草分けO'Reilly & Associates, Inc.社長、ティム・オライリー氏



SRI Internationalのフランク・クオ博士（右）、中国大陸とのインターネット技術交流のために学生派遣プログラムを計画中

「メディア・ブランド」を確立することの重要性を指摘し、その上で広告収入を中心としたオンライン出版のモデルを提示した。同氏は今後、さらにオンライン出版の比重を高めていくと語った。

ただし、全体的に見るとビジネストラックでは、現実の運用実態や問題点を論じたものが思いのほか少なかった。その中で、イーエスエスAT&T株式会社の松本敏文氏による日本の「ダイイチ」の洋書輸入販売の実績と、通信衛星、CATV、インターネットを統合したホームショッピングの将来構想のプレゼンテーションが大きな興味を引いていた。

さらにエンドユーザーからの視点がよく観察できたのが、教育トラック、地域トラックとユーザートラックであった。特に教育トラックはかなり間口が広いという印象で、インターネットの教育利用の現状について、シンガポール、台湾、トルコ、リトアニア、スロバキア、メキシコなどからも報告があった。日本からも南山大学の後藤邦夫氏と東京大学の中山雅哉氏による100校プロジェクトを中心とした日本での活動報告があり、また、ハワイ大学マノア校と南山大学との間での共同遠隔授業実験の具体的な報告もハワイ大学の青木久美子氏から聞くことができた。

ユーザートラックではインターネット上のバーチャル博物館に関する芸術家と一般のユーザーのアンケート調査の社会的な報告があった。

民主主義とインターネットというテーマ



閉会の基調演説でインターネットビジネスの展開を大胆に予測するアスキーの西和彦社長

が多い「政策」トラックの中で注目されたのがシンガポール国立大学のアン・ベン・ホワ氏の「シンガポールにおけるインターネット上の情報検閲」問題で、政府が本来開放的なインターネットから得られるメリットと情報検閲との危ういバランスをとりながら、国策としてインターネットを推進しようとしている現状がユーモラスな口調で語られた。なお、シンガポール国民の間では検閲制度を是とする合意ができていくとのことである。

さらに拡大する インターネット上の世界協調

最終日の締めくくりの全体会議の基調講演者の1人である株式会社アスキーの西和彦氏は、過去に家庭電化製品とソフト産業の歴史の変遷から独自のインターネット市場の予測を展開した。2010年まで、そしてそれ以降の情報スーパーハイウェイが、デジタルビデオディスクとマルチメディアパソコンの合体によって実現されることを図式



メイン会場のフロアでは、小規模ながら協賛企業のブースも設けられた。Windows用の安価なWWWサーバーを開発したオライリー社のスタッフたち



インターネット1996ワールドエキスポの仕掛人、カール・マラムッド氏

を多用して解説した。

さらに、西氏の「世界平和のためのインターネット学会」という提言には、会場から期せずして大きな拍手が沸いた。

続いてインターネット上のラジオ放送局、インターネット・マルチキャスト・サービスを主宰するカール・マラムッド氏から「インターネット・ワールド・エキスポ」の具体的な構想が発表された。

マラムッド氏によると、来年1月1日から始まるこのイベントは、インターネット上の博覧会であり、特定の会場を持たないが、世界中の8つのキーとなるサーバーにテラバイト級のデータ量の「セントラルパーク」をつくり、デジタル的な常設会場とするという。これをT3ラインで接続し、広く「パピリオン」を招致するほか、世界各地で実際の関連イベントも開くという。

クリントン大統領とゴア副大統領、そして世界有数の企業が支持を表明しているこのイベントが、来年のインターネットで一番の話題になるかもしれない。

INET '95全体を通しての感想は、参加者が増え、そのバックグラウンドが多様化しながらも、インターネットの各分野の第一人者と直接コンタクトがとれる感覚がまだ息づいているということだった。

また、日本からの提出論文数（11件）は、アメリカ（76件）に次いでイギリスと同数の2位となっており、来年のINET '96（カナダ・モントリオールで開催）には、日本からより多くの研究発表・活動報告と参加者があることを期待したい。

来場者15万人突破に沸く Windows World Expo Tokyo

..... Internet Explorer が初登場

6月21～24日の3日間、幕張メッセでWindows World Expo Tokyoが開催された。今回は、いよいよこの秋(11月頃とうわさされている)に発売予定のWindows 95が来場者の前でデモされた。実はマスコミで宣伝されているのでもうに見たことがあるような誤解があるが、きちんと動いているWindows 95が一般ユーザーの前でデモされるのは今回が初めてである。

インターネットマガジンで注目したいのは、Internet Explorerが初日のセミナーで紹介されたことだ。

Internet Explorerは、Windows 95のおまけパックであるMicrosoft Plus (別売)に含まれるWWWブラウザだ。このブラウザ

ユーザーがきちんと紹介されたのはWindows Worldが初めてである。

Windows 95には標準でWWWブラウザが付くのではないかなどいろいろな憶測が流れていたが、結局は別売で落ち着いたようだ(このおまけパックにはその他ゲームやシステムエージェント、ディスク圧縮ツールなどが含まれる)。

このExplorerはWindows 95との親和性が高めてあり、またNetscapeの拡張機能にも対応することである。

注目されるのはOLEによる他ドキュメントへのInternetリソースの取り込みと、ドラッグアンドドロップによるショートカットの作成機能である。

Macintosh版のNetscapeでもグラフィックなどをドラッグアンドドロップできた。

しかし、これはGIFファイルなどをデスクトップに保存するだけで、インターネット上のリソースとは切り離されてしまう。Internet Explorerでは、ブラウザ上のリソースをドラッグするとデスクトップにショートカットができる。このアイコンを開くたびに、インターネット上からリソースを取り込んで最新の情報が表示される。

このほか、Microsoft ExchangeでSMTPによるメールをやりとりするためのツール「SMTPメールプロバイダ」などがこのMicrosoft Plusに含まれる。このMicrosoft Plusにも注目してもらいたい。



Windows 95

NTTパワーネットのライブに 3万以上のアクセス

オフラインと通信ネットワークをミックスしたイベント「NTTパワーネット Vol.0」の集大成となるライブが、7月2日に恵比寿ガーデンホールで開催された。東京スカパラダイスオーケストラ、ローリー寺西、WAHAHA本舗の稲垣義明が出演したこのライブの様子は、高城剛率いるT-REPs (Team-Realtime Encoding Performance) によって会場からインターネットへ発信された。昨年ローリングストーンズで話題になったマルチキャストではなくデータファイルをWWW上に登録したもので、リアルタイム画像ではないが、開演前の楽屋の様子やリハーサルステージの様子が紹介され、2時間弱のライブの間に32,100件ものアクセスがあった。また、渋谷のエレクトロニックカフェでもインターネットを通じて中継された。当日の様子は7月31日までパワー

ネットのページに登録されており、トーク内容はリアルオーディオで聴くことができる。この秋にはNTTパワーネットVol.1も開催される。

URL <http://www.ntt-ad.co.jp/ntt-power.net/>



インターネットでリクエストされた曲も演奏された

NRIサイバービジネスパークのネットサーフ倶楽部がパーティー開催

4月に立ち上がった企業合同ホームページ「NRIサイバービジネスパーク1995」上で会員を募集している「ネットサーフ倶楽部」が、7月7日、「インターネットカフェ」として知られている横浜のサテンドールで、初のパーティー - 「夏の祭典・今夜はパーティな気分だね!」を開催した。

開催に際しての告知や申し込みは、すべてインターネット上で行われた。同時に、会場で披露するためのユニークなホームページも募集した。

当日、会場に集まったのは幅広い年齢層で40人強。会場にはパソコンを設置し、ネットスケープがOHPとテレビモニターに大きく映し出された。各人が見つけてきたホームページや参加者自身のホームページを紹介するなど、ネットサーフィンを楽しみながらのパーティーとなった。

この夏の注目スポット 「インターネットカフェ」続々登場

インターネットへ接続できるパソコンを置いた「インターネットカフェ」がオープンしている。まだインターネットにふれたことがない人にはおすすめのスポットだ。東京広尾のCafe Des Pres Hiroo（カフェ・デ・プレ広尾）は、広尾駅3番出口を出ると目の前にあるオープンテラスの店。フロア中央にOS/2Warpが入ったIBMパソコンが3台ある。インターネットの利用料は飲食料と別に30分当り500円。

場所：港区南麻布5-1-27

TEL03-3448-0039

営業時間：11時～24時

URL <http://www.despres.co.jp/>

渋谷の道玄坂にあるElectronic Cafe Tokyo（エレクトロニックカフェ・トーキョー）は大きなアップルマークが目印。地

下に降りていくとマッキントッシュが20台以上もあるイベントスペースになっている。ここは9月25日までの期間限定オープン。入場は1ドリンク付きで2000円～2500円。インターネットにちなんだ数々のイベントが展開される予定。

場所：渋谷区道玄坂1-18-3 37 フジビルB1
12時開店。月曜～金曜23時、金曜・土曜・祝祭日前は深夜、日曜日22時まで。横浜に行ったなら関内駅近くのスタア食堂と白札屋に行ってみよう。メーカー色は一切ない。

白札屋：横浜市西区南幸1-12-4

TEL045-311-1181

営業時間：17時から23時15分

スタア食堂：横浜市中区常盤町1-4-2

TEL045-661-0188

Cafe Des Pres Hiroo

Electronic Cafe Tokyo

営業時間：17時から23時

URL <http://www.cen.co.jp/star/>

インターネットでも利用できる アップルのビデオ会議システム

アップル社はマルチメディアビデオ会議システム「クイックタイムコンファレンシング」を今年中にリリースすると発表した。同システムは文字や静止画、動画、音声などの素材を対話しながらデスクトップ上で共有できるというもの。ユーザーの会話を録音し、それらをクイックタイムムービーとして保存することができる。

同システムはソフトウェアだけのものと、ハードウェア処理によるものとの2系統に分かれ、前者はLANやインターネット上で使われる。圧縮処理には、クイックタイムムービーとは違った新しい処理が使われている。相手のIPアドレスを直接指定することによって、インターネットにアクセスできる。

ハードウェア処理が必要なシステムは、AVマッキントッシュにプラグインボードを装着することによって、高画質のビデオ会

議システムを実現。世界標準のH.320をサポートしている。ISDNを使った高速回線が必要とする。

来日した米アップル社のマルチメディアネットワークングアドバンストテクノロジーグループマネージャーのエリック・ホファー氏は、クイックタイムコンファレンシングについて「この製品を使うことによって、どのようなネットワークでも、それぞれの予算に合った形で新しいコミュニケーションが可能になる。販売ターゲットは、かなり幅広い。より良いコミュニケーションをしたいすべての人を対象に考えている」と語った。

価格は未定とのことだが、同製品は8月から発売される新型パワーマックへのバンドルが決まっている。また、ホファー氏の話によると、IPマルチキャストへの対応や、ネットスケープへの組み込みも考えているという。

問い合わせ アップルコンピュータ カスタマーアシスタンスセンター

TEL0120-61-5800



クイックタイムコンファレンシング



来日したエリック・ホファー氏

新規プロバイダーが6つ登場 BNN、ITJ、セントラルインターネット、丸紅、他

6月29日にサービスを開始したのは、出版社のBNN。アナログ回線のダイヤルアップ接続に限ってサービスを提供する「BNNインターネット」。入会金3,000円、年間固定12,000円。WWWサーバーの閲覧と電子メールサービスに機能を限定することによって低価格を実現。ニュースグループのサービスなどは行わない。アクセスポイントは東京のみ。

日本国際通信（ITJ）が100%出資しているアイティジェー・インテリジェント・テレコム（ITJIT）も、7月1日から接続サービス「ITJIT Net」を開始。

提供品目は、専用線接続が、アナログ回線とデジタル64Kbpsから1.5Mbpsまで。加入料金は40,000円から10,000円、月額110,000円から1,800,000円となっている。端末型ダイヤルアップサービスでは、加入料金30,000円、アナログ回線およびINS64を使った非同期38.4Kbpsが月額固定25,000円。デジタル回線を使ったLAN型ダイヤルアップ接続が月額固定150,000円となっている。アクセスポイントは、当初は東京。本年度中に大阪に増設する予定。

7月7日には、以前からインターネットが楽しめることで知られている横浜の「スタア食堂」を経営する岡本商事が、新たにプロバイダー「セントラルインターネット」としてスタート。レンタルサーバーを中心としたサービスで、その利用者向けにダイヤルアップIP接続サービスも行う。レンタルサーバーは登録料が法人契約の場合30,000円、個人は10,000円。月額基本レンタル料は法人12,000円、個人2,000円。ダイヤルアップ接続はアナログ28.8Kbpsのみ。アクセスポイントは横浜。

9月からプロバイダー事業への参入を発表したのは、大手商社の丸紅と、パソコン

本体および周辺機器を扱う岡山県の三洋コンピュータ。丸紅が提供する「丸紅インターネットサービス」は端末型ダイヤルアップのみのサービス。全国どの場所からのアクセスでも通信料金が一律のNTTのサービス網「ビデオテックス通信サービス」を利用するFAMILE-MMと、一般公衆回線を利用するFAMILE-IPとがある。FAMILE-MMは初期費用5,000円、月額基本料個人1,000円、法人3,000円、接続料10円/分。FAMILE-IPは、初期費用5,000円、月額固定で個人3,000円、法人5,000円。

岡山県のコンピュータ販売会社、三洋コ

ンピュータは、ダイヤルアップに限ったサービス「晴れの国ネット」を開始する。入会金15,000円、月額3,600円、3時間以上は追加料金20円/分となる。最高月額は18,000円。入会金8,000円、年額20,000円のサービスもある。

問い合わせ

ビー・エヌ・エヌ：営業部

TEL03-3238-1271

アイティジェー・インテリジェント・テレコム：

TEL03-5565-3537

丸紅：丸紅インターネットサービス事務局：

TEL0120-414200

岡本商事：

TEL045-853-0975

三洋コンピュータ：

インターネット事務局 TEL086-226-2112

既存のプロバイダーも 回線増強などサービス向上を図る

新たなサービスプロバイダーが参入するなか、既存のプロバイダーも料金の改定や回線速度の向上などでサービスの向上を図っている。

ITJは、平日深夜および土日前日に限り、接続料金の引き下げを開始した。通常料金は30円/分だが、同時間帯には15円/分になる。tcp-ipも初期費用を従来の半額の1万円に設定。接続料金も同時に引き下げた。

また、PSINetは、ダイヤルアップ接続の月額最低料金を3通りにして、選択肢を増やした。

大阪のスリーウェブが提供するダイヤルアップ接続も、従来は回線貸し切りサービスだけだったが、このほど貸し切りを行わない安価なコースも追加、「3Webnet」として年定額18,000円で提供する。

NSPIXPとの接続速度を向上させたプロ

バイダーは、C&CmeshとSinfony。ともに1.5Mbpsでの接続。また、C&Cmeshは新たにインターネットKDDとも1.5Mbpsで接続した。

さらに、IBMインターネットサービスも、9月1日から専用線サービスを開始。初期費用は50,000円、月額料金は64Kbpsが215,000円、128Kbpsが350,000円、192Kbpsが470,000円、256Kbpsが550,000円、384Kbpsが800,000円、512Kbpsが900,000円。同社はコンテンツ構築サービスなど、ほかのインターネット関連のソリューションを「インターネット・コネクション・ファミリー」として新たに体系化。また、インターネット関連部門を結集した新組織「インターネット・マーケティング・オフィス」も設置し、インターネット関連分野を大幅に強化した。

国会議員が党派を超えて ネットワークデモクラシー研究会

ネットワーク社会に対応した新しい政治のあり方を研究することを目的に、国会議員を中心としたグループが6月28日に、「ネットワークデモクラシー研究会 (Net D.)」を発足、憲政記念館で発足式が行われた。

同研究会は「ネットワークに政治がどう対応するか」を考えることを目的としており、さまざまな問題を市民とともにネットワーク上で考えていく方針で活動する。呼びかけ人は衆議院議員の築瀬進をはじめ、党派を超えて集まった議員および元議員、ネットワーク有識者。

発足式を兼ねた第1回会合「Net D. キックオフ」では、パソコン通信やインターネット上で呼びかけられたネットワークユーザーが出席。趣旨説明や運営幹事の挨拶などが行われた後、第1回の議事が開かれ、今後のNet D. への要望について参加者が活発に意見を出し合った。

当方は大手商用BBSやインターネット上で議論のテーマを募集し、会合で具体的な活動内容を討議していく考え。活動内容の報告や同研究会のアピールを目的としたホームページも開設した。第2回会合は8月10日に予定している。

電子メール ni2k-okmt@asahi-net.or.jp

URL

<http://www.mmjp.or.jp/netd/index.html>



挨拶をする築瀬進氏

新党さきがけ、新進党、社会党が インターネットで情報提供

政党によるインターネット上での情報発信が活発になってきた。新党さきがけは6月27日に、社会党と新進党は7月1日にそれぞれホームページを公開した。

さきがけのホームページでは、議員のプロフィールや、最近起こった事件に対する見解などが紹介されている。社会党では、村山首相の顔写真をはじめ、テレビCFの動画ファイルや有権者へのアンケートなど。新進党では英文テキストのみの提供となった。同党では、NECのPC-VAN上で「新進党フォーラム」を始めるなど、ネットワークへの関心を高めている。

URL 新党さきがけ [http://](http://www.coara.or.jp/coara/sakigake/my.html)

www.coara.or.jp/coara/sakigake/my.html

社会党 [http://www.omnics.co.jp/](http://www.omnics.co.jp/politics/SDPJ/SDPJ.html)

[politics/SDPJ/SDPJ.html](http://www.omnics.co.jp/politics/SDPJ/SDPJ.html)

新進党 <http://www.meshnet.or.jp/NFP/>

大手パソコン通信から利用する 「InterSite」10月から開始

日本最初の商業集積ネットワーク「InterSite」(インターサイト)のサービスが10月から開始される。情報告知、広告宣伝、通信販売、アンケートリサーチなど情報発信中心のネットワークサービスで、情報発信希望者に15Mバイトの基本テナントを貸し出すもの。提供される情報は新商品の詳細情報や裏情報、ビジネスユースで役に立つプログラム、データなどで、アクセスはPC-VAN、ニフティサーブ、コペルニクス(現K-NET、8月からサービス名変更)などパソコン通信ネットに設けられるInterSiteメニューからゲートウェイ方式で行う。InterSiteへアクセスするための特別なIDは不要だが、各ネットの利用料のほか1分当たり10円が課金される。

問い合わせ ケイネット内InterSite事務局
TEL045-633-5196

WWWサイトを探索できる 仮想都市「NetCity」公開

WWWのページを情報内容別に分類し、新たに構築した仮想都市から各サイトを探索できる環境「NetCity」が、インターネットプロジェクト実行委員会により公開された。東京インターネットが特別協賛している。街並みを模したグラフィカルなインターフェイスを備えており、目指す情報が明確でなくとも、ショッピングタウン、企業WWWタウンなどの画面を左右にスクロールさせてぶらぶら歩きながら情報を発見することができる。NetCity専用サーバーにスペースを確保する企業や団体のほか、リンク先のページへもアクセスできる。サーバーのスペースは一定の容量まで無料。

問い合わせ インターネット・プロジェクト
実行委員会 TEL03-3582-0011

電子メール menjo@majical.egg.or.jp

URL <http://NetCity.OR.JP/> (予定)

デジタル認証サービス 三菱商事が国内で開始

ネットワーク上のセキュリティ確保と信用供与を行うサービスが米国VeriSign社により開始された。同社は三菱商事、ピザインテリナショナル、アメリテック、RSAデータセキュリティなどが設立。日本では三菱商事が総代理店となりサービスを行う。このサービスは、VeriSign社がサポートするソフトウェア上で書類を送ることにより、ネットワークでの通信に信用が確保された環境を作るもの。VeriSign社が認証局を運用し、ユーザーとサーバーに認証書を発行する。認証書は暗号を公開するための「Public Key」とその所有者、認証局の署名から構成され、ユーザーが発信する情報の身元確認が可能となる。日本でまずNetscapeサーバーに認証書が発行された。

問い合わせ 三菱商事(株)技術部光エレクトロニクスチーム TEL03-3210-7553

ニフティがGUI 試行サービス 「NIFTY Manager」開発

ニフティサーブでGUIの試行サービスが開始された。マルチメディアサービスへの対応を目的としたもので、操作性の向上とともにマルチセッションやオンライン画像表示も可能としている。この新サービスのために、ニフティは新たに「HMI」プロトコルと専用通信ソフト「NIFTY Manager」を開発、マウスによるポインティングやウィンドウによる表示、アイコン、カラー画面により操作性を向上させ、ライブラリからのプログラム一括ダウンロードや会議室の発言経緯の視覚的表示もできるようにした。専用ソフトはまずWindows版をモニター会員へ限定提供。その要望を反映させたうえで9月下旬から一般会員にも無償で提供する。WWWへの接続機能も計画している。

問い合わせ ニフティ(株)メンバーサービス部
TEL03-5471-5806

日米相互のカタログショッピング ピープル、インターネットで

マルチメディア企画のデジタルメディアラボとパソコン通信のピープルワールドは共同で、CD-ROM、パソコン通信、インターネットを利用した日米相互のカタログショッピングサービスを今秋をメドに開始する。すでに米国でコンテンツウエア社が展開中の「SHOPPING2000」を日本で事業化するもので、米国のコンテンツに加え、日本版のコンテンツも収録する。利用者は音楽や動画が付いたCD-ROM カタログを見てほしいものがあればパソコン通信のピープルを通じて注文し、日米の商品を購入できる。また、WWWサーバーでは最新カタログが参照できる。なお、ピープルは、9月より専用ソフト「ワールドトーク」によるWWWサーバーへの接続サービスを開始する。

問い合わせ デジタル・メディア・ラボ(株)
TEL03-3344-5300

インターネット通販 「NTM Shopping」開始

ダイレクトマーケティング通販会社のNTTテレマーケティングは、インターネット上でのショッピングモール「NTM Shopping」を開設、出店企業の募集を開始した。このサービスは、インターネット上に展開するバーチャルショッピングモールと、同社が豊富な実績とノウハウを持つコールセンターによる通信販売受注業務サービスを組み合わせたもの。インターネット上での受注・カード決済機能だけでなく、セキュリティなどを考慮して、電話による受注体制も整備した。

また、日本サンマイクロシステムズの技術協力により、サンが開発した「Javaテクノロジー」も採用してより高度な内容に発展させていく計画。

問い合わせ NTTテレマーケティング(株)事業開発部 TEL03-5294-0521

WWWによる双方向教育システム ネクストコムが開発

ネットワークコンピューティング機器のネクストコムは、中央大学総合政策学部の大橋正和教授と共同でインターネットを利用した教育システムを開発した。このシステムは、WWWの機能を利用した教育システムおよび問題の提供・解答システムと、WWWサーバー側の自動採点システムと解説システム、結果のデータベース機能からなっている。練習問題は選択式、穴埋め記述問題などにも自動採点システムが対応しており、問題を解答すると、瞬時に採点結果と解説などが解答者に返送される。また、受講者の進度測定や記述式のレポートの提出もできる。同社では今後、このシステムを利用してさまざまな教育システムを構築する予定。

問い合わせ ネクストコム(株)マーケティング本部 TEL03-5321-3260

インターネットメールで受ける 機械翻訳サービス開始

パソコンサービス業務のクリエイトラボは、カナダのInTransNet Services社と提携してインターネットの電子メールを利用した機械翻訳サービスを開始した。日英、英日の翻訳をサポートし、翻訳したい原稿をテキスト形式で指定されたアドレスにメールすれば、A4判1枚を約10分で機械翻訳し、発信元にメールで返送する。InTransNet社ではビジネス4万語、コンピュータ4.5万語、法律4万語など分野別の専門辞書18種類を用意しており、60～80%程度の確率で翻訳できる。24時間受付で、入会金が1,000円、20Kバイトまでの翻訳料を含む月額基本料金が2,000円。20Kバイトを超える場合は翻訳結果に対して1バイト0.1円の追加料金となる。

問い合わせ (株)クリエイトラボ
TEL0120-835019

ジー・サーチがWWWのギャラリー 「FROM JAPAN」をオープン

データベースディストリビューターのジー・サーチは、NESTおよびアートディレクターの青葉益輝氏と共同で、日本の一流アーティストやデザイナーの作品を展示する「FROM JAPAN」ギャラリーをインターネット上にオープンした。ギャラリーは自由に鑑賞でき、9月1日からは作品のダウンロード販売も始まる。販売価格は鑑賞・教育目的の場合には256色が500円、フルカラーが3,000～7,000円。ホームページのデザイン用にはフルカラーを30万～50万円販売する。また、環境問題への取り組みをアピールする「Love Mother Earth95」も展開し、公募の作品募集もスタートする。

問い合わせ (株)ジー・サーチ商品開発部
TEL03-5442-4395
電子メール www@gsh.co.jp
URL <http://www.g-search.or.jp/>

メール利用の情報提供サービス オート・レスポンス・センター

オート・レスポンス・センターは、インターネットの電子メールを活用した情報提供サービスと通信販売の受け付け代行サービスを開始した。WWWを利用せずに電子メールだけで情報を提供するため、WWW利用のサービスに比べ大幅な低コストを実現しているのが特徴。情報提供希望者は同社のサーバーに登録した自分のインターネット・アドレスへパスワードを使って電子メールで製品の価格情報などを登録。購入希望者はこのアドレスへ電子メールを送るだけで、登録された情報を電子メールまたはFAXで受け取り、注文もできる。情報提供の利用料は漢字3万字までで月1万円。

問い合わせ オート・レスポンス・センター
TEL045-772-8919

電子メール

internet@shopping.center.co.jp

マルチメディア著作権専門サーバー リットーミュージックが公開

リットーミュージックは、マルチメディア著作権専門のWWWサーバーを公開した。これからのマルチメディア関連の商品開発に不可欠な著作権について、最新情報や、事例研究を基にした実用的なQ&A、ニュース&トピックス、入門者のための基礎講座などを提供する。

問い合わせ ㈱リットーミュージック マルチメディア著作権情報編集室

電子メール mci@rittor-music.co.jp

URL <http://mci.rittor-music.co.jp/>



大日本印刷が美術展のページ 「ヴェニス・ビエンナーレ」

大日本印刷は、10月15日までイタリア・ヴェニスで開催される国際美術展「ヴェニス・ビエンナーレ」の日本館の情報をWWWを使用して発信する。この美術展は1895年の第1回開催以来、今回が46回目で100周年となり、日本館では「数奇：複方言への試み」をテーマに河口洋一郎、崔在銀、千住博、日比野克彦の各氏が出品している。同社では昨年12月からWWWサーバーを立ち上げ、事業活動などを発信するほか、国内の美術館情報も提供している。今回は現地情報を発信するほか、ヴェニスの大学やイタリアのWWWサーバー、出品作家のWWWサーバーへも同社のホームページからアクセスできる。

問い合わせ 大日本印刷㈱

TEL03-3266-2111

URL <http://www.dnp.co.jp/>

岐阜県と滋賀県が共同で 観光キャンペーン

岐阜、滋賀の両県は共同でWWWを利用し、両県の観光資源について日本語と英語で紹介している。紹介する観光資源は岐阜県が「合掌の里・白川郷」と「長良川の鶺鴒」の2種類。滋賀県が「比叡山延暦寺」と「琵琶湖」の2種類。また、観光キャンペーンのメイン事業として展開中の、両県の観光地を巡るスタンプラリーの中から、街道コースとして設定されている8か所のスタンプポイントも紹介。インターネットを利用したスタンプラリーとして国際的にPRしている。提供期間は8月31日まで。

問い合わせ

岐阜県企画部観光課 TEL058-272-1111

滋賀県商工労働部観光物産課

TEL0775-28-3741

URL <http://www.sphere.ad.jp/mp/>

gshome.html

千歳市マルチメディア情報センター インターネット体験施設も開設

千歳市は、インターネットやマルチメディア機器が使える「千歳市マルチメディア情報センター」を新千歳空港旅客ターミナルビル4階に開設した。同センターは通産省が全国6か所に整備を進めているマルチメディア情報センター構想の第1号で、マルチメディアを地元市民や観光客などに体感してもらい、地場産業の育成も図ろうというもの。最新のマルチメディア機器を使用できる「工房ゾーン」と「共同視聴ゾーン」で構成され、工房ゾーンではCG作成やマルチメディアデータの編集ができるほか、共同視聴ゾーンのネットワーク体験コーナーではインターネットに接続できる。

問い合わせ 千歳市マルチメディア情報センター TEL0123-27-9882

URL

<http://www.city.Chitose.Hokkaido.jp/>

cmmic/

ベルシステム24が 「写楽World」で日本を紹介

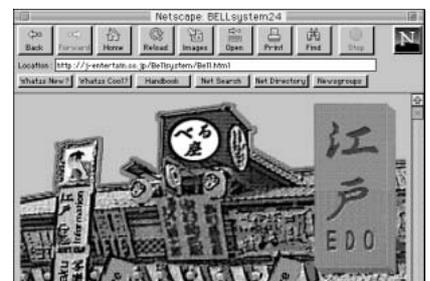
総合テレマーケティングのベルシステム24は、広告代理店のI&Sが運営・企画するWWWサーバー「J-Entertainment」を利用して情報提供サービスを開始した。江戸文化と情報メディアを語る「Edo World」、映画「写楽」を通して江戸文化を紹介する「写楽World」で構成する。

問い合わせ ㈱ベルシステム24

TEL03-3590-0024

URL <http://j-entertain.co.jp/>

Bellsystem/Bell.html



原爆記念日にインターネットで作品と日記を募集

8月6日の原爆記念日に関連し、「地球を癒す」ことをテーマに、インターネットを利用して世界中から作品と日記を集める企画「メガ日記」が8月6日から16日まで実施される。この企画は8月6日にアジアのアーティストが広島に集うイベント「H.O.P.E.」(Healing Our Planet Earth)に連動して行われるもので、アーティストの八谷和彦氏が企画し、H.O.P.E.実行委員会が実施する。

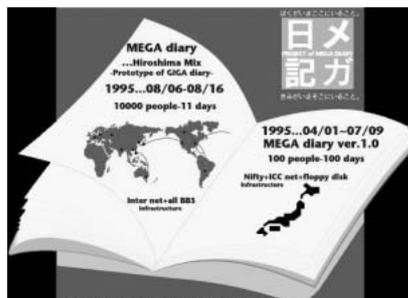
世界中の創造的なエネルギーを広島に集め、人と環境の調和、創作という行為を通じ、国境を越えた人々の間へ愛と尊敬を育む平和の祝典を行おうと、世界中へ呼びかけるもの。寄せられた作品は本として出版する。また、「H.O.P.E.アーティスト・ページ」も開設し、8月6日までに集められた作品やパフォーマンスなどの映像記録、作品の記録写真、それらの概念的背景や詩、

文章などを収録する。期間中は広島市中央公園や東京・渋谷区のエレクトリック・カフェ、福岡市のアメリカ・センターなどに同プロジェクトにアクセスできる会場も設置する。作品送信用電子メールアドレスはnikki@shrine.cyber.ad.jpで、画像などのFTP

ad.jpのusers/nikki/oncomingまで。
問い合わせ プロジェクトH.O.P.E.実行委員会 TEL03-3441-8434

URL <http://www.cyber.ad.jp/artnet/hiroshima/> (8月6~16日)

八谷和彦氏の作品



プロ野球の公式記録提供開始 勝敗表や有名選手の紹介など

日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー事務局は、1936年に日本プロ野球が創設されて以降の公式記録をWWW利用により英語で提供を開始した。内容はチーム勝敗、選手成績ランキング、個人年度別成績、有名選手の紹介などで、野茂投手のデータもある。

問い合わせ 日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー事務局 TEL03-3502-0022
電子メール baseball@www.inter.co.jp
URL <http://www.inter.co.jp/Baseball/>



レンタルでインターネットを体験 「寺子屋ウェブ」が横浜に開店

好きなときに好きなだけネットサーフィンができるオープンスペース「寺子屋ウェブ」が横浜・関内駅前に開店した。店内に設置された5台のMacintoshを使用して、フリーレンタルやガイド付き体験ツアー、インターネットセミナーなどによりインターネットを楽しめるもの。利用料金はフリーレンタルが30分500円。ガイド付き体験ツアーは美術関連や音楽関連のホームページを体験できるコースなどがあり、各コースとも60分2,000円。セミナーはWWWブラウザの使い方や、電子メールの使い方をマスターするコースなどがあり60分4,000円から。営業時間は11時から20時まで、定休日は日曜・祭日。

問い合わせ 寺子屋ウェブ

TEL045-681-5940

URL <http://www.cen.co.jp/terakoya/terakoya.html>

ネットワークコミュニティ研究会 8月には公開シンポジウム

ニフティが「ネットワークコミュニティ研究会」を発足し、ネットワーク上で形成され展開されたコミュニティについて、学術的な調査・研究活動を行っている。コーディネーターは編集工学研究所所長の松岡正剛氏で、毎月1回討議が行われている。

その研究報告によると、オンラインコミュニケーションにおいて、日本人特有の議論スタイルがあることがわかった。たとえば、アメリカのBBSに比べ一般的にメッセージが長く、内容も冗長なものが多いことや、賛成・反対の立場を明確に示す議論スタイルは発展途上にあることなど。

この研究会はニフティの100万人達成記念事業として今年の3月に発足したもので、8月には公開シンポジウムも予定されている。
問い合わせ ニフティ(株)メンバーサービス部 TEL03-5471-5806

教員へインターネットIDを貸与 東海スクールネット研究会

東海スクールネット研究会は、インターネットの教育利用の普及を目的として、小中高校の教員向けにインターネットへ接続するためのIDを無料貸与している。同研究会は、東海地区の先生方の呼びかけにより昨年12月に設立された。代表世話人は滝高校の栗本直人教諭。IDは東海インターネット協議(TIC)のダイヤルアップサービスtcp-ipのもので、TICは同研究会の活動を支援している。研究会は、インターネットの授業での利用方法や、接続と管理の方法などについて、講習会、勉強会を企画運営している。活動に積極的に参加できる教員を対象に、tcp-ipのIDを貸与。すでに20数人がIDを貸与されている。なお、平成6年度の活動は、(財)コンピュータ教育開発センターの研究助成を受けた。
電子メール schoolnet-wg@tokai-ic.or.jp

地域の情報化を推進する 京都情報基盤協議会設立

京都地域の情報基盤の整備と利用技術の確立を目指して「京都情報基盤協議会」が設立された。インターネットとCATVの関係を図るなど京都地域の情報基盤の整備を推進するとともに、企業の情報化を支援し、京都の産業振興を図るのが目的。このため、インターネット関連のセミナーやシンポジウムなども開催して、情報化への会員の啓発も図る。地元経済人を代表して堀場製作所の堀場雅夫会長など12人が発起人となり、京都地域の企業約180社に参加を呼びかけた。また、京都市や企業で作る第3セクターの京都高度技術研究所と京都ソフトウェア研究所も参画する。事務局は京都高度技術研究所内に設置。なお、同様な協議会は神戸市などでも設立されている。

問い合わせ 京都高度技術研究所

TEL075-315-3625

WWWでホテル予約 ホリディ・インが運用開始

ホリディ・イン・ホテルは、WWWを利用してホテルの予約が行えるシステムの運用を開始した。ホテルを選ぶにはグラフィカルに表示された世界地図の中から国や地域、都市を絞り込んでいき、目的のホテルにたどり着く方法と、直接ホテルのディレクターから選択する方法がある。空き室情報も確認でき、主要なクレジットカードにより、その場で予約申し込みもできる。50週前から予約可能。

URL <http://www.holiday-inn.com/>



Yahooが商用化 ホームページに広告掲載

インターネットのWWWサイトのナビゲーションページとして、1日25万件ものアクセスがあるといわれる人気ページYahoo(ヤフー)。4月に企業として再スタートしたばかりだが、そのヤフーがホームページに広告を掲載することを検討していると報道され、動向が注目されている。掲載費は、3か月間のトライアル期間中で、1か月2万ドル。まず、1業種、5つの企業がスポンサーにつくという。

URL <http://www.yahoo.com/>



米eWorldの日本語版 来年サービス開始

米アップルコンピュータが英語圏で提供しているパソコン通信サービス「eWorld(イーワールド)」の日本語版が、来年初頭にも国内で始まる予定だ。

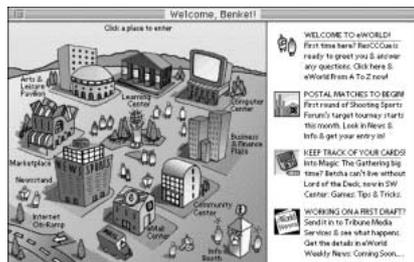
eWorldは、これまでMacintoshユーザー向けに提供されていた。都市を模したトップ画面を採用し、GUI操作で情報検索や電子カンファレンス(チャット)、ショッピングなどのさまざまなメニューを利用できる。米国では専用ソフトをプレインストールしたパフォーマンスも販売されているが、日本でも、スプリットネットのアクセスポイントが利用できるため、専用ソフトを入手してアクセスしている人もいる。電子メールを自動的に振り分けてくれる機能や一定のメールを受信すると自動的に返信する機能、ロイターのニュース写真をオンライン表示するサービスなど、実用的なネットワークになっている。インターネットサービス

は、電子メールとネットニュース、FTPのほか、7月末にはWWWへの乗り入れも始まるという。すでにWindowsに対応させることを発表しており、ユーザー数を拡大する意向。日本語版はMacintosh版からスタートさせ、追ってWindowsにも対応するという。日本語版のコンテンツプロバイダーは未定。

問い合わせ アップルコンピュータ㈱

カスタマーアシスタンスセンター

TEL0120-61-5800



eWorldのメインメニュー。この他、ダイレクトコマンドを使うこともできる。

日本語インターネットフォン 三井情報開発が発売

三井情報開発は、インターネット上で音声による会話ができる通信ソフト「インターネットフォン」日本語版の販売を始めた。このソフトは米国のヴォーカルテック社が開発したもので、音声データの圧縮・伸長技術と通信パケットの整合技術により、インターネット利用者間でリアルタイムな音声データを交換する。利用者は「インターネットフォンサーバー」にアクセスし、接続中の相手を選択できる。価格は14,800円。同社の公開サーバーやCD-ROM「POD」などで試用版を配布、購入希望者に対して公開サーバーで利用者登録を行う。

問い合わせ 三井情報開発㈱コンサルティング事業部 TEL03-3237-6125

電子メール iphone@pc.mki.co.jp

URL <http://www.mki.co.jp/>

PC用サーバーソフト 「ボーダーウェア」新発売

ニチメンデータシステムは、カナダのボーダーネットワークテクノロジー社が開発したインターネット用ファイアウォールサーバー「BorderWare Firewall Server」に関して、ボーダー社と日本における販売総代理店契約を締結することで合意、本格的な販売活動を開始する。

BorderWareは、ファイアウォールシステムとアプリケーションサーバーが一体化した製品。ファイアウォールシステムとしてはパケットフィルタリングとアプリケーションゲートウェイ機能をサポートする。また、内部ネットワークのシステムに変更を加えることなく、透過的に外部各種サービスにアクセスできるトランスパレント機能や、IPアドレス変換機能、インターネット側から内部ネットワークへ接続するためのユーザー認証機能も装備している。

一方、アプリケーションサーバーとして

は、WWW、メール、DNS、News、FTPなどを組み込んでおり、インターネットに必要な機能をすべて網羅している。価格は25ノード用が75万円、100ノード用が150万円、ノード無制限で240万円、ハードウェアと組み合わせても150～200万円で企業におけるインターネットアクセスが可能となる。

問い合わせ ニチメンデータシステム(株)

ネットワーク営業課 TEL03-3864-7789

電子メール oosuga@nichimen-nds.co.jp



ソニーの「NEWS-7000」 WWWサーバー用ソフトも発売

ソニーは、大量のデジタルデータを高速処理・転送するためのデジタルメディアサーバー「NEWS-7000」を発売する。高速RISCのR10000を採用し、CPUを4個並列にして処理能力を従来比8倍に向上させるとともに、バスを64ビットに広げ2系統装備することにより入出力性能を4倍に向上させたのが特徴。また同時に、NEWSシリーズにソフトウェアや必要な周辺装置を組み合わせてWWWサーバーを構築できるソフトウェア製品群「MediaWAVE」も発売する。価格はNEWS-7000が299万円からで、MediaWAVEはサーバー支援パッケージが18万円、クライアントパッケージが3万円、ネットスケープコミュニケーションズサーバーが22万円など。

問い合わせ ソニー(株)NEWSインフォメーションセンター TEL03-5448-5417

Windows用ユードラ日本語版 8月にクニリサーチから

インターネット電子メールソフト「EUDORA(ユードラ)」Windows用の日本語版をクニリサーチインターナショナルが8月に発売する。Macintosh用はフリーソフトとして日本語版も普及しているが、Windows用はこれまで英語版しかなかった。ユードラは利用者が定義したメールボックスにメッセージを自動的に仕分けする機能や、メールをローカルで格納し、ネットワークに接続されていないときでもメッセージを表示する機能、バイナリメールの自動変換など豊富な機能をもつベストセラーソフト。シングルユーザー向けには主にオンラインショッピングで販売し、価格は9,800円。Mac版も機能アップして年内に発売する。

問い合わせ (株)クニリサーチインターナショナル TEL06-538-9701

電子メール sales@kuni.co.jp

NECのインターネット用ソフト スターターキットなど7種類

NECはインターネット接続のためのソフト群「meshPLUS」を発売する。新製品は英日辞書引き機能付きのWWWブラウザ「Netscape/ej」(6,000円)、このWWWブラウザなど6種類のソフトとC&CインターネットサービスmeshのID番号および2,000円分の使用権をセットにしたスターターキット「Internet Go Go!」(18,000円)、インターネット上の英文を日本語に翻訳する「英日翻訳アダプタ for the Internet」(14,800円)、HTML文書を作る「Word-to-Web」(9,800円)、約9万語の単語辞書を持つ「英日辞書引き君」(9,800円)、さらにネットスケープ製のコミュニケーションサーバーとコマースサーバーも発売。

問い合わせ NEC汎用アプリケーション

事業部商品企画部 TEL03-3456-8345

電子メール

meshPLUS@ppd.ased.mt.nec.co.jp

ソニーがFAXモデム新発売 メモリー内蔵型も一新

ソニーは、V.34とV.FC両規格に対応した28800bpsの高速FAXモデム「SMD-V34シリーズ」を発売した。同社は昨年6月にV.FC対応の28800bpsモデムを発売しているが、今回はV.34規格にも対応させた。標準型とメモリー内蔵型があり、メモリーは1Mバイトと4Mバイトの2種類。それぞれWindows版とMacintosh版がある。ノイズ対策を強化したほか、メモリー内蔵型ではパソコン電源がOFF状態でも時間指定送信が可能で、FAX受信もモデム単体でできる。また、データ/音声/FAXを自動的に振り分ける「回線自動切り替え機能」も搭載している。

価格は標準型が39,800円、1Mバイトのメモリー内蔵型が69,800円、4Mバイトのメモリー型が99,800円。

問い合わせ ソニー(株)東京お客様ご相談センター TEL03-5448-3311

マクニカがアクセスツールを発売 ファイアウォールソフトも

TCP/IPソフトウェアの販売を行うマクニカは、インターネットの中を自由に行き来するためのWindows3.1対応アプリケーションパッケージ「SurfWin」を発売した。WWWブラウザや電子メール、ニュースリーダー、TELENET、ネットワークファイルマネージャー、PPPダイアラー、イメージビューアのほか、インターネット上の動画・音声を表示・編集するツールMPEGと、全部で9種類のツールをパッケージしている。価格は19,800円。

続いて、カナダのミルクウェイネットワーク社が開発したファイアウォールソフト「Black Hole」も発売する予定。価格は未定。

問い合わせ ㈱マクニカ TEL045-939-6155
パソコン通信 ニフティサブ マクニカフォーラム GO FMACNICA

インターネット専用ISDNボード マイテックが発売

マイテックは、インターネット専用の低価格なISDNボード「Surfing Bord 64」スタンダードパックを発売した。ISDN回線を利用した同期64KbpsによるダイアルアップIP接続に対応したボードで、パソコンの拡張スロットに差し込んでISDNと接続するだけで同期64Kbpsの高速通信が可能となる。PPPドライバおよびTCP/IPスタックがバンドルされており、市販のインターネット接続ソフトにより高速アクセスができる。価格はDOS/V用が59,800円、PC98 / PCMCIA用が64,800円。

今後、初心者向けにインターネット接続ソフトをバンドルしたチャレンジパックや、パソコン組み込み型のパーフェクトパックの販売も予定している。

問い合わせ ㈱マイテックISDN事業部
TEL03-5609-9810

DOS/Vパソコン4機種 インターネット仕様で新発売

米国サスティーン社は、DOS/Vパソコン「InternetReady」4機種を発売した。4機種すべてがインターネット仕様となっており、従来機に比べ、CPU、メモリー、ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブのスペックが向上したほか、価格も引き下げられている。インターネット仕様としては、V.34対応の28800bps高速FAXモデムを内蔵し、FAXソフト「Quicklink2.0J」を付属。また、NEWTとTCP/IPアプリケーション集のセット、「Chameleon」をインストール済みで、異なるアカウントやホストに対する複数の並列セッションをサポートしている。このほか、ネットマネージャ社のWebサーファもインストール済み。価格は198,000円～348,000円。

問い合わせ ㈱アメリカンメガトレンド
TEL03-3839-3761

シイエスエスがISDN-PCIBusカード 64Kbpsでインターネットへ接続

シイエスエスは、インターネットへ64KbpsでダイアルアップIP接続できるISDN-PCIBusカード「TimeLinerInternet64PCI」を発売した。アップル社から発売されるPCIBus搭載の新PowerMacintoshシリーズ用のカードで、NTTのデジタル回線サービスINSネット64に対応し、64Kbpsの高速通信でインターネットに接続できる。NuBus版「TimeLiner」シリーズの全機能を踏襲しており、完全互換性を持っている。同カードを使用して同期64KbpsのダイアルアップIP接続ができるプロバイダーは、アスキー・インターネット接続サービス、IIJ、Infosphere、InterRamp、NISnetなど。また、TimeLiner同士では最大128Kbpsで接続可能。価格は84,800円。

問い合わせ ㈱シイエスエス
TEL03-3979-8123

NECが高速ISDN用TA発売 非同期と同期の両方式に対応

NECは、非同期、同期の両通信方式に対応できるISDN用ターミナルアダプター「AtermIT35」を発売した。57.6Kbpsの高速非同期通信も可能で、既存のインターネット接続用ダイアルアップ機能などをそのまま高速化できる。アナログポートを搭載しているのでインターネットアクセス中でも電話やFAXを同時に使用することが可能。このほか、着信時に相手の通信速度に自動的に合わせる自動速度調整機能や、速度指定発信機能など既存のTAやパソコン通信サービスとの接続性も考慮している。価格は84,800円。新製品にインターネット接続に必要なソフトやブラウザなどをまとめたスターターキットをバンドルし、特別セットとして販売することも予定している。

問い合わせ NEC パーソナルC&C
マーケティング本部 TEL0120-361138

「INTERNET IN A BOX」 トランス・コスモスが国内販売

米国大手パソコン通信コンピュサーブが発売するインターネット関連ソフトが、日本ではトランス・コスモスから販売されることになった。同ソフトに関して国内独占販売契約を締結したもので、販売するのは個人向けのアクセスソフト「INTERNETINABOX2.0」や「MOSAICINABOX」、企業向けのアクセスソフト「InternetOfficeProfessional,RUMBAEdition4.0」、情報発信サーバー用ソフト「InternetOfficeWebServer,Professional4.0」、ダイレクト・マーケティング・ツール「MosaicDirect」など10種類。トランス・コスモスでは、すでに日本語化作業を進めており、順次販売を始める。

問い合わせ トランス・コスモス㈱事業企画
推進本部インターネット・グループ
TEL03-3586-2880

Java 言語は すべてのコンピュータで共通の基盤言語となることを目指す。

Interview : 編集部

サン・マイクロシステムズラボラトリーズ
ジョン B. ゲージ氏
ディレクター / サイエンスオフィス

サン・マイクロシステムズが開発した動く WWW ブラウザー「HotJava」。詳細は104ページで解説したが、7月X日から幕張メッセで開催されたサン・マイクロシステムズ社のプライベートフェアである「SPARC/UNIX COSMOS」に、Javaのコンセプトにも深く関ったジョン B. ゲージ氏を訪ねた。氏は、あのビル・ジョイ氏の片腕ともいわれ、サン・マイクロシステムズのキーパーソンの一人である。Java 言語、そしてHotJava ブラウザー登場の背景について伺った。

Java 言語を開発した背景について教えてください。

Java 言語の基本的なアイデアは、ワークステーション、パーソナルコンピュータ、または組み込み型の小型の装置に至るまで、なんら違いのない世界を作っていこうということです。それを実現するために、私たちは8年くらいまえに、新しい言語を作らなければならないと考えました。ビル・ジョイは、「C++ ++ = 」といていたわけですが、このように彼が新しい言語を模索していたときに、周囲はCからC++に移行しようとしていたわけですが、C++は、多くの人が使っていますが、決して使い勝手のよい言語ではないということが分かってきま

した。というのは、C++になにかの機能を追加しなければならぬといったら、安全なメモリ管理であるとか、ガベージコレクションの問題をあげることができます。もし、なにかをなくすのであれば、ポインタなどを取り外さなければならないでしょう。そして、すべてのコンピュータが一樣に扱えるような完全に安全な言語を作りたいと思ったわけです。そして、これを分散コンピューティングで使おうと思ったわけ

です。4年くらいまえに、そうした思惑から「グリーンプロジェクト」という秘密のプロジェクトを始めました。このプロジェクトに関与していたジェームス・ゴスリングという人がいました。彼はEmacsを作ったり、

ウィンドウシステムであるNeWSを作った人ですが、彼ら8人が集まって、シンプルな言語を作ろうということになりました。三菱、東芝、ソニーなどの家電メーカーがいずれテレビをネットワークでつかないで使う場合の環境として、こうした言語は必要になると考えたのです。しかし、パーソナルコンピュータ業界の人たち、セットトップボックスの業界の人たち、テレビなどの家電業界の人たちはネットワークをまったく考えていなかったのです。私たちは、そうした業界の人たちに対して、安全性の高い新しい言語が必要になるのだということを説いて回ったわけですが、安全な言語を使うことで、ウィルスのない、ネットワーク上でもアタックするのが難しい環境をすべて

の家電メーカーが推進していかなければならないと説明したのです。しかし、メーカーの人たちは快く聞いてはくれたものの、ネットワークがいかに危険な存在なのかについては理解してくれませんでした。

そして、ちょうど2年まえに、WWWブラウザが登場したことでネットワークが爆発的に使われるようになりました。そして突然、パソコン業界の人がネットワークがパワフルであるということを理解しはじめました。あのビル・ゲイツですら、ネットワークがここまでパワフルであるということを理解していませんでした。だから現在のノベル社がここまで成功しているのです。もしビル・ゲイツがネットワークがパワフルであるということを理解していたら、ノベル社はここまでになっていなかったでしょう。このようにWWWブラウザが使われるようになって、私たちが関心を示していた問題である、セキュリティ、信頼できるオブジェクト、認証、取引をするためのすべての要素について、いろんな人の理解が得られるようになりました。

WWWブラウザが使われるようになり、パリ、モスクワ、ニューヨークから自分のページを画面に出すことができるということで急速に理解が示されるようになってきたのです。そこで、Java言語のブラウザを作って、オブジェクトをネットワークに提供していくということが可能になったのです。これが実現することで、コンピュータは変わっていくと思います。いままでのオペレーティングシステムは必要なくなります。ウィンドウズNTだとか、OS/2だとか、UNIXだとかというものは必要ありません。単に基盤として使っているだけです。

HotJavaブラウザは単にWWWブラウザの表現力があがっただけではなく、もっとすごい使い方ができる可能性を秘めているのではないかと思います。今後どのように利用されることを想定していますか？

HotJavaブラウザの目的は、多くの人に機能を示すということです。Java言語というインタープリターを1000万、1億のコンピュータで一様に使えるようにしたいのです。ですから、ウィンドウズ、マッキントッシュなどのいろんなプラットフォームで動かせるようにしたいのです。たとえば、PC上で作られたスプレッドシートのプログラムをバイトコードにコンパイルすることで、マシンから独立したアプリケーション環境になるのです。つまり、それをなんら変更することなくマッキントッシュ上で動かせるようになるのです。そうすると、ソフトウェア業界の経済も変わっていくことになると思います。特定の機種用のソフトウェアを作ってきたソフトウェアハウスも変わらざるを得ないと思います。HotJavaブラウザのコピーを1億個売ることが目的ではなく、そうしたモデルを示したかったのです。

HotJavaブラウザは、アプリケーション・オン・デマンドを実現することになると思いますがそうした可能性もありますか？

そのとおりだと思います。オペレーティングシステムがハードウェアの違いを隠し、ポータブルなCコンパイラによって、いろんなマシンアーキテクチャー上で動くようになったわけです。そしてUNIXもいろんなマシン上で動くことでハードを隠し、ウィンドウシステムがオペレーティングシステムを隠し、アプリケーションがそのウィンドウシステムの違いを隠したのです。私たちのアイデアは、中間にあるものをリプレースしようというものです。カメラ、自動車、テープレコーダーにアプリケーション・オン・デマンドを実現しようとしているわけです。それを実現するためには必須な要素があります。まず、ネットワークがいたるところになければなりません。第二に小さくて高速なインタープリター、コンパイラの技術が必要になります。これはもうすでに実現されていますよね。また、第三にセ

キュリティを根本から考えたデザインが必要になります。ゼネラルマジック社のマジックキャップにセキュリティがないということはご存じだと思いますが、これでは分散型のアプリケーションを作ることができないのです。

ですから、そのシステムの根幹になっている部分、つまり言語からアプリケーション・オン・デマンド、セキュリティを念頭に置いていなければ、分散アプリケーションを安全な形で作っていくことはできないということです。

ところで、相変わらずプログラムを書かなければならないですか？プログラムの書ける人はアイデアがないし、アイデアのあるひとはプログラムが書けないというのが問題だと思うのですが。

分子のモデルを動かすサンプルアプリケーションを見たことがありますか？これは小さなアプリケーションで4000バイト程度のプログラムコードです。私もJava言語のプログラムを書くことはできませんけれど、修正することくらいはできます。そういう修正をするための元になるクラスを作っていくこと、しかもたくさんクラスを作っていくことが必要なのです。

つぎのステップとしては、ビジュアルプログラミングになると思います。ビジュアルなプログラミングなら誰にでもできますよね。これはきっとビジュアルベーシックを超えるものになると思います。つまり、すでにあるものを組み合わせるといったことができるようになります。

また、Java言語のプログラムは他の言語にみせかけることも可能です。たとえば、Java言語を拡張してCommon LISPのようにもできます。また、他の言語にしたてることもできるのです。こうした言語の一番下ではJava言語のインタープリターを使って、いろいろなアプリケーションが動くことになるのです。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp